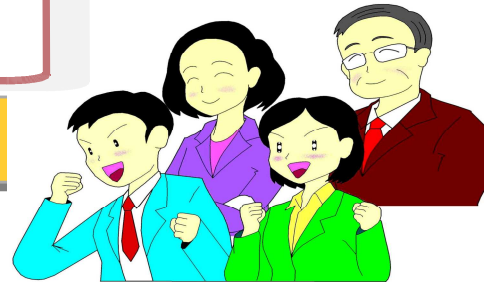


不祥事根絶のために！

あなたの職場は大丈夫？

★「チーム学校」として、不祥事を根絶できる職場となっているか、チェックしてみましょう！



- 気持ちにゆとりをもつことができる職場環境となっている。
- 気軽に相談できる同僚や管理職がいる。
- 特定の教職員に過重な負担がかかっていない。
- 教職員一人一人の長所や得意分野が活かされている。
- 力を合わせて、組織で課題を解決していく体制ができている。
- 職場にサービス規律や指導のルールを守る強い意識がある。
- 孤立しがちな教職員はいない。
- 児童生徒の誤解を招くような言動をする教職員はいない。
- チェックシート等を活用し、普段から不祥事防止に取り組んでいる。
- 全教職員が、公務員として24時間求められる身分上の義務を理解している。

チェック欄

/ 10

不祥事根絶の具体策は？

平成29年度公立学校管理運営研修会（各教育事務所毎に開催している、副校長・教頭対象の研修会）の受講者が、実際に取り組んでいる対策、今後取り組む予定の対策（抜粋）を掲載します。

■参加型研修の実施

- ・「なりきり研修」の実施。不祥事に関する新聞記事の内容をもとに、被害者、当事者、同僚、当事者の家族、保護者の立場でレポートを作成する。
- ・不祥事が発生した場合の記者会見のロールプレイングを行う。教育長、校長、教頭、記者、保護者等、それぞれの違う立場の役割を、交代で担当することで、当事者意識を高めることができた。
- ・若手教職員に、どのような行為がわいせつ・セクハラ行為にあたるのか、対策まで含めて考察させる。
- ・実際の不祥事を起こした加害者と近い年代の教職員で、その事例の背景について考え、予防策を検討する。
- ・若手教職員が企画する、ボトムアップ型研修（事例研究、ロールプレイング、ディベート等）を実施する。
- ・若手教職員と生徒との会話のロールプレイングを行い、互いの意識の差を埋める。
- ・男性教職員と女子児童生徒との適切な距離感を教えていく。

■不祥事根絶を図る職場環境づくり

- ・教職員が弱音を吐けるような職場風土を醸成する。
- ・教職員が、毎日、お互いに声を掛け合い、風通しのよい職場環境をつくる。
- ・相互授業参観を通して、お互いのよいところを探すなど、教職員の自己肯定感、自尊感情の高揚を目指した取組を充実させる。
- ・不祥事根絶を図る標語やキャッチフレーズを、教職員から集めて選考し、掲示する。
- ・モラールアップに関する川柳の作成を、定期的実施する。

■管理職による実態把握

- ・わいせつ・セクハラアンケートを定期的実施する。
- ・校内巡視により、教職員と児童生徒との距離感を把握する。
- ・校内の教職員と児童生徒との距離感等の様子について、情報交換する機会を設ける。
- ・異性から見た、同僚教職員の観察や情報収集を通して、不祥事の予兆を未然にとらえる。
- ・校舎内外の環境を点検し、暗い場所や密室になる場所、死角をつくらぬ工夫をする。

誰が不祥事を防ぐのか？

不祥事を防ぐ最後の、そして最大の力は、教職員一人一人の自覚と努力以外にありません。「自分は大丈夫！」と過信することなく、常に「危機感」と「当事者意識」をもち、もう一度、自分自身を厳しく見つめ直すことが大切です。